

## 第4回町田市文化プログラム推進計画策定検討委員会 議事要旨

<b>日時</b>	2017年2月15日（水）午後6時～8時
<b>会場</b>	町田市役所 10階 会議室 10-2・3
<b>出席者</b>	<p>■委員（敬称略） 三上豊、香取幸一、米増久樹、松香光夫 高野賢二、西田司、仕田佳経、岡田万里子</p> <p>■事務局 文化スポーツ振興部長 田後毅 文化振興課 小田島、清水、寺井、戎谷、山田</p> <p>■運営支援 株式会社丹青研究所</p>
<b>資料</b>	<p>資料1 beyond2020 プログラム</p> <p>資料2 【町田市文化プログラムの対象分野】の検討</p> <p>資料3 町田市文化プログラム推進計画（素案）</p>

### 会議内容

#### 1. 開会の挨拶

事務局より開会の挨拶および資料説明を行った。

#### 2. 議事

- (1) 町田市文化プログラムの対象分野の検討
- (2) 町田市文化プログラム推進計画（素案）の検討
- (3) その他

(1) および(2) について事務局から説明を行った。

#### ■町田市文化プログラムの対象分野の検討

- ① 対象分野の例示を表記した場合
- ② 対象分野の例示を表記しない場合
- ③ 対象分野を文章で表記した場合

委員：①、②は対象分野を図式化するとわかりやすくなる。①は自由な発想を押さえてしまう可能性がある。また、5つの対象分野を並列することに違和感がある。「町田市に関わる歴史と生活」と「生活文化」は内容が重複しているように思われる。

委員：掲載媒体により適切な表記が異なる。

委員：一般市民を対象とするならば解説文の「とどまらず」という表現もわかりにくい。また、例示がアイデアを限定してしまう可能性がある。

委員：「あたらしく多様な取り組み」にも例示が必要ではないか。②もしくは③が良いのではないか。

委員：「とどまらず」という表現にはネガティブな印象がある。

委員：②で解説文を無くしてはどうか。

委員：市民向けに紙媒体で告知するならば、最も具体が示されている①がよい。また、市民は「文化芸術振興基本法」に馴染みが薄いので①もしくは③がよい。

委員：障がい者施設に関わる立場からすると、各施設が音楽や芸能と連携するには①がわかりやすい。また、「あたらしく多様な取り組み」にも例示が必要である。発想の例示

を示すことで、参加しやすくなる。

委員：「とどまらず」という表現を「対象分野に加え」や「対象分野に含め」という表現としてはどうか。

委員：②は具体が示されていない点が良い。「町田市文化プログラム推進計画（素案）」では取り組みの具体例を示していないので、これから検討する姿勢を表現すればよい。推進計画に弾力性を持たせる意味においても具体が示されていない方がよい。

委員：一人でも多くの人に参加するためには、市民にとってのわかりやすさが重要だ。

委員：読み手の視点からすると例示があるほうが理解しやすいのではないか。

委員：「芸術」の例示は詳しすぎる。例示内容の整理が必要である。

委員：対象分野を以下のようにする。

○町田市に関わる歴史と生活

○芸術・芸能（文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踏、伝統芸能等）

○新しく多様な取り組み（ダンス、パフォーマンス、メディア芸術等）

また、若者にとっては「美術」よりも「アート」という方がなじみやすい。

委員：町田の文化、町田のスポーツというような解説書で具体例を示すなど、推進計画では詳細を省いてはどうか。

委員：「あたらしく多様な取り組み」のヒントになるようなメディアアート、ダンス・パフォーマンスがあり、また、解説文に工芸やデザインがあるので、対象分野から「生活文化」を除いてはどうか。

委員：茶道や華道はどう示すのか。

委員：「文化芸術振興基本法に加え」と表記することで対応できる。

事務局：事務局で検討し、メール等で報告確認する。

#### ■町田市文化プログラム推進計画（素案）の検討

委員：第2章が推進計画となっているが、内容からすると計画とはいえず、むしろ第4章が計画に該当するのではないか。

委員：第2章を「町田市文化プログラムの基本方針」と表記すればよい。

委員：文化資源については、もう少し追記する必要がある。

委員：次年度は実行計画の検討と平行して取り組みを展開するということか。

事務局：2018年からの3ヶ年を実施の期間と想定している。

委員：「推進計画」を「基本計画」とすることで内容との整合性がとれる。観光と文化の観点からすると、体験できることを前面に打ち出してもよいのではないか。弱者とも一緒に体験できるということで対象者を増やせる。

委員：ホストタウンはどのような展開を予定しているか伺いたい。

事務局：インドネシアやマレーシアのバドミントン選手が当市で合宿をしており、ホストタウンの取り組みは南アフリカに限定しているわけではない。

委員：ホストタウンとは東京2020大会に限定した取り組みととらえるべきなのか伺いたい。

事務局：広い意味でとらえていただきたい。

委員：市民が文化にふれる機会の拡大だけでなく、文化の担い手にとっての効果も加えてはどうか。また、海外交流の活動がホストタウンだけでよいのか検討する必要がある。

委員：取り組み（案）に、これまでの海外交流の事例を加えてはどうか。

委員：「ホストタウン相手国の」という表記はいらぬのではないか。

委員：ホストファミリーなど家族単位の視点があってもよい。

委員：基本方針Ⅴと基本方針Ⅵの内容が似ているので、まとめてはどうか。

委員：協議内容をまとめると、以下のようになる。

- ・見出しに体験という文言を加える。
- ・取り組み（案）に加えられるものがあれば検討する。
- ・基本方針Ⅴと基本方針Ⅵの整理を行う。

■その他

委員：町田市文化プログラムと町田市市制 60 周年との関わりについて伺いたい。

事務局：期間は重なるが、実施のあり方については検討中である。